

2007年度(2008年3月期) 中間決算説明会



2007年11月8日
大正製薬株式会社
社長 上原 明

2007年度中間決算：概要



連結損益の概要

(億円)

	06年度 中間	07年度 中間	前年同期比		対予想* (億円)
			(億円)		
売上高	1,220	1,207	▲13	▲1%	+17
SMG※	777	753	▲24	▲3%	+1
医薬事業	442	454	+12	+3%	+16
営業利益	147	191	+44	+30%	+66
経常利益	164	225	+60	+37%	+80
中間純利益	123	141	+18	+14%	+51
EPS(円)	40.0	47.4			

注：数字は億円未満四捨五入

※SMG：セルフメディケーション事業

*7月発表の従来予想対比

07年度中間期：売上高増減の要因



(億円)

	売上高	前年比	
リポビタンシリーズ	422	▲11	前年未達だが、計画は上回った
パブロンシリーズ	78	▲14	猛暑で夏風邪が流行らず
リアップシリーズ	48	+5	店頭販促強化が奏効
OTCその他*	106	▲8	
リビタシリーズ	11	+1	
大正富山医薬品	400	+10	ジェニナック初期出荷等
ロイヤルティ	9	+1	特許切れの影響が一巡
医薬中間製品等	46	▲2	アボットジャパン向け中間製品減少

注：数字は億円未満四捨五入

*OTCその他：付帯資料の「一般用医薬品等」の売上高から掲載されている主カブランド リポビタンシリーズ、ゼナシリーズ、パブロンシリーズ、リアップシリーズ、胃腸薬を差し引いたもの。



利益増減の要因

	前年比 (億円)
売上高増減	▲13
SMG※	▲24
医薬事業	+12
売上総利益	▲16
販管費	▲60
営業利益	+44

粗利益率 67.0%→66.3%*
(*返品調整引当金戻入・繰入後)
・大宮工場製剤2号棟稼動により
減価償却費が増加
・製商品ミックスの変化等

販管費率 54.9%→50.5%
・研究開発費 ▲15億円
・広告宣伝費 ▲15億円
・販促費 ▲12億円
・人件費 ▲3億円

※SMG:セルフメディケーション事業

- ・ 営業外損益:富山化学の期間損益が改善し、持分法投資損益が黒字に

通期連結業績予想



10月発表の修正予想を変更せず

(億円)

	通期予	前年比	従来予*	修正額
売上高	2,435	+1%	2,405	+30
SMG※	1,498	+0%	1,494	+4
医薬事業	937	+1%	911	+26
営業利益	295	+32%	230	+65
経常利益	355	+42%	285	+70
当期純利益	220	+43%	175	+45
(参考)				
大正富山医薬品売上高	820	+2%	790	+30

注: 数字は億円未満四捨五入

※SMG: セルフメディケーション事業

*7月発表予想

2007年度以降の課題

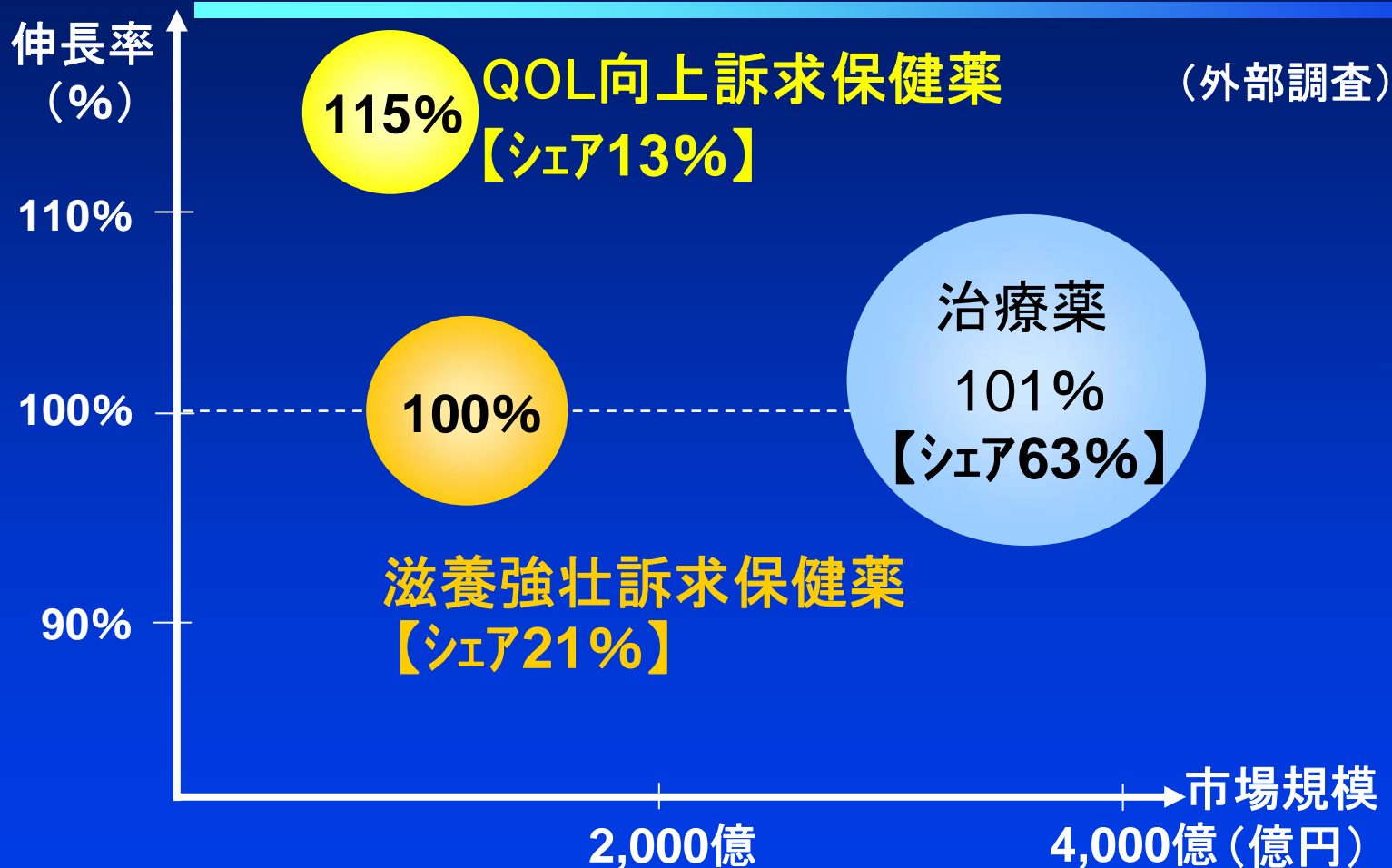


セルフメディケーション事業(1)

OTC医薬品の市場分析

① 一般用医薬品市場の内訳

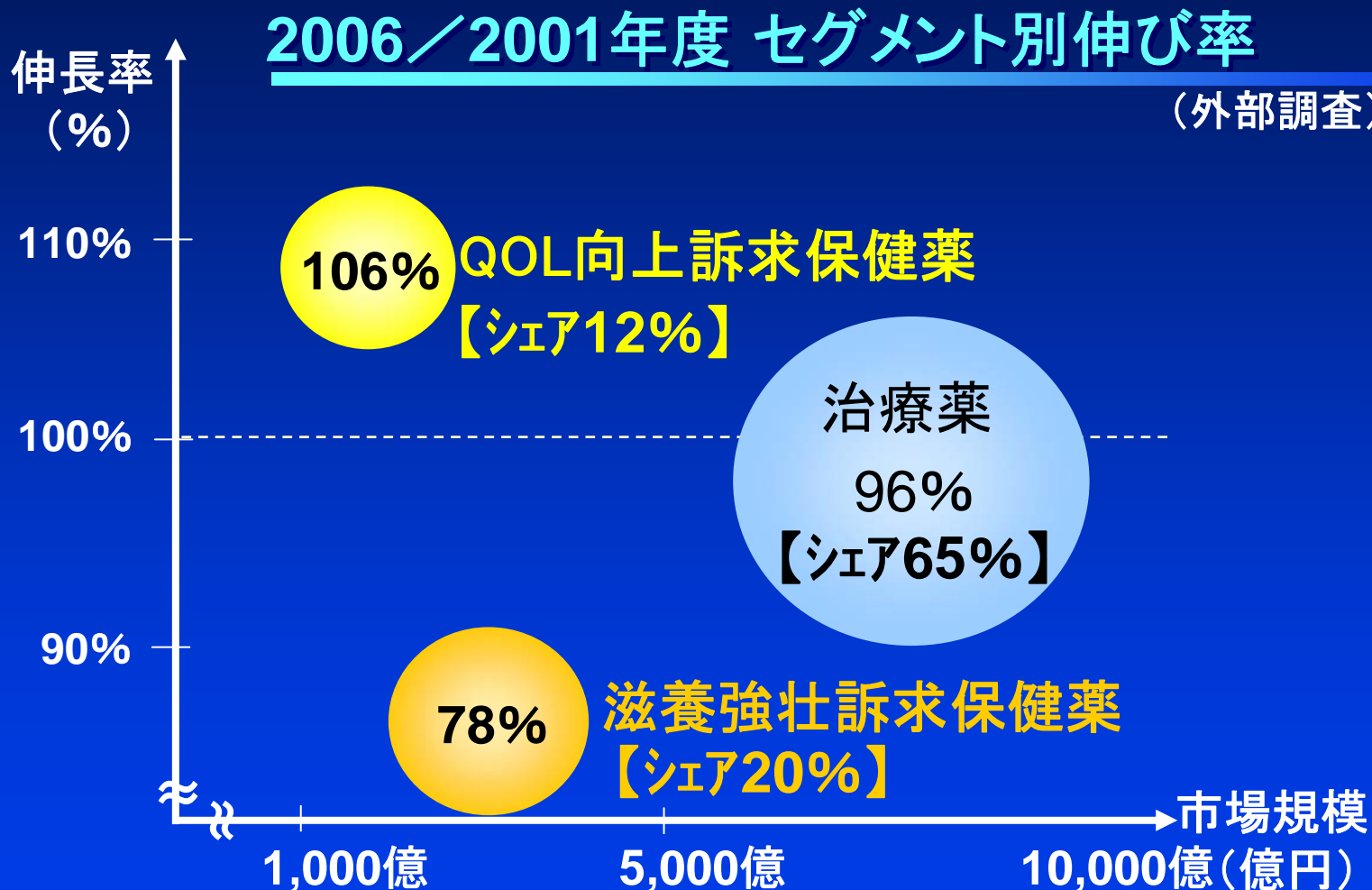
2007年度上期／2006年度上期 セグメント別伸び率



※伸長率:2006年度上期に対する2007年度上期の販売金額伸長率
※円の大きさは、市場規模の大きさを表す

② 一般用医薬品市場の内訳(5年間の変化)

— 滋養強壮訴求保健薬市場の縮小が市場収縮の原因



※伸び率:2001年度に対する2006年度の販売金額伸び率

※円の大きさは、市場規模の大きさを表す

2007年度以降の課題



セルフメディケーション事業(2)

- 治療薬市場、生活改善薬市場
 - － 既存ブランドの強化
 - 店頭消化・情報提供
 - 広告規制緩和(例:臨床データ付き広告の実施など)
 - － スイッチOTC、新規カテゴリー
- 滋養強壮保健剤市場の縮小
 - － メタボリックシンドローム対応市場を拡張
 - 予防は「特保」「OTC医薬品」
 - 治療は医療用医薬品にて対応
- メタボ市場をOTC医薬品へ
 - － 医療保険財政対応策として
- 予防OTC医薬品、予防医薬部外品



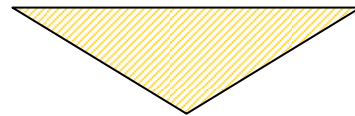
商品開発の方向性

キーワード

メタボリックシンドローム

生活習慣病の増加

3大生活習慣病：高血圧・高血糖・高コレステロール



保険財政の圧迫



予防・軽医療は患者全額負担のOTC・特保へ

※JSMIからスイッチOTC候補成分として発表

- ・糖尿病治療薬： α グルコシダーゼ阻害剤
- ・高血圧治療剤：ACE阻害剤 他

セルフメディケーション事業：新製品



- ここにきてスイッチOTCの審査状況が進んでおり、新製品発売も下期に集中

赤文字: 発売済みの製品

<p>＜第1四半期＞</p> <p>からだ環境ダイエット(通販) アイリス50、アイリス50クール パルスweet液体タイプ など</p>	<p>＜第3四半期＞</p> <p>ヘルペシア、アイリスアレスト リビタ純粹玄麦黒酢、 パブロンハンドジェル365<レモン> 通販(ダイエットスープタイプ) 保健薬 など</p>
<p>＜第2四半期＞</p> <p>リポビタン8NEW リビタ天然水 ナリッシュナイトクリーム(通販) プリザ、メンフラ など</p>	<p>＜第4四半期＞</p> <p>リアップ(配合剤) パブロン、ダマリン、 リビタ、保健薬 など</p>

2007年度以降の課題



医薬事業

- 大正富山医薬品の強化
 - － 重点領域、重点製品の情報提供活動を強化
 - － キノロン系抗菌薬ジェニナック発売(10月5日):
順調な滑り出し
(アステラス製薬との共同販促)
- 研究開発
 - － 開発のスピードアップ
 - 海外大手への導出

医療用医薬品：研究開発



- **パイプラインの状況**
 - 7月以降の変更点
 - ジェニナックの発売
- **海外他社への導出が進む**
 - 米国ファイザー社 (TS-032)
 - 米国ブレインセルズ社 (精神疾患治療薬候補物質)
- **研究開発費**
 - 導出が進んだことに加え、一部、予定の変更などにより
今期計画を修正
(SMGと医薬事業の合計で262億円→244億円に)

医療用医薬品：新薬パイプライン



医療用医薬品の開発状況（2007年11月7日現在）

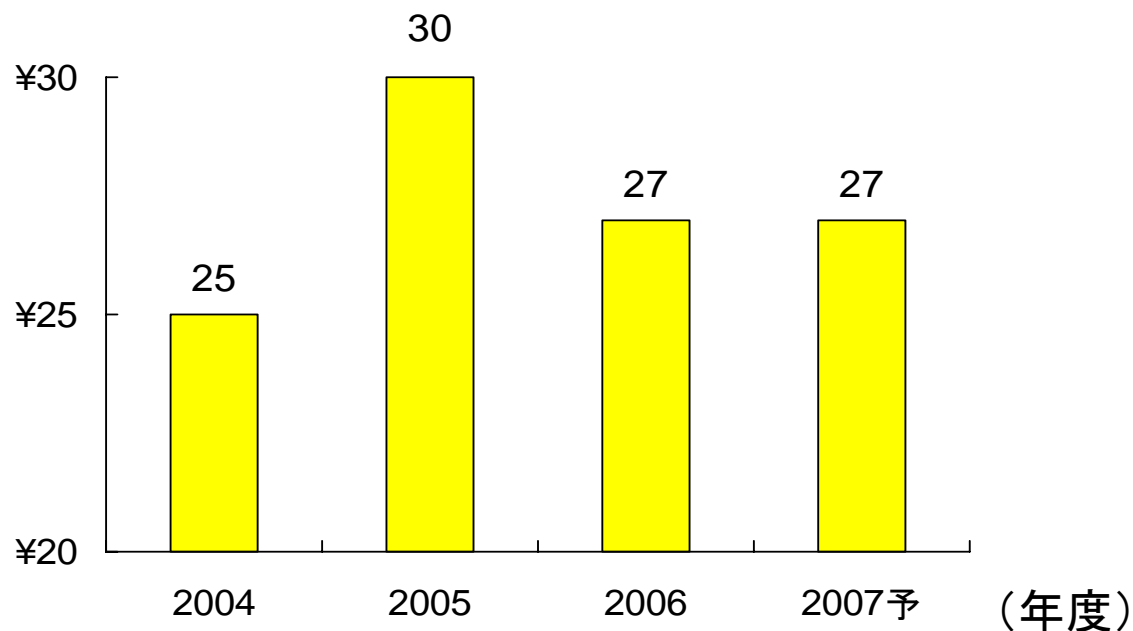
開発段階	製品名・開発コード*	剤形	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
発売	ジェニナック (T-3811)	経口	ニュータイプ [®] のキノロン系合成抗菌剤	富山化学共同	富山化学	2007年7月31日承認 2007年10月5日発売
フェーズ2/3	CT-064	注射	骨粗鬆症	中外共同	ロシュ	
フェーズ2	NT-702	経口	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う 間歇性跛行	日産化学共同	日産化学	
	TT-063	外用	変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン	
	CT-064	経口	骨粗鬆症	中外共同	ロシュ	
	NT-702	経口	気管支喘息	日産化学共同	日産化学	
	TS-033	経口	1&2型糖尿病	自社	大正製薬	日本と海外でP2
	TS-022	外用	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬	
	パルクス	注射	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	自社	大正製薬/田辺三菱製薬	適応追加



株主還元

- 配当

- 初めて中間配当を実施予定(1株当たり12円)
- 配当性向30%(単体、特別利益除く)は継続するが、最低ラインとして27円/株を維持する方針



1株あたり配当金の推移